

## 編集後記

昨年度から引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、会員のみなさまにおかれましては、様々にご苦勞なさっていることと拝察申し上げます。この間、本研究会にもCOVID-19は大きな影を落としてきました。昨年度は、本誌の編集刊行スケジュールに大きな遅延が生じ、また例会が開催できなくなるなど、会員のみなさまにもご心配をおかけいたしました。

他方で、今年度は昨年度の反省等を踏まえて、研究会のあり方に関するいくつかの点での再検討を進めました。特に論文検討会および例会をオンライン（Zoom）で開催できたことは画期的でした。以前から研究会では一部オンライン対応をしてきましたが、今年度は試験的に全体をオンラインへ切り替えたことで全国各地の会員に参加いただくことができ、例年以上に活気づいたように思います。また、「ハラスメント対策」「アドバイス制」等を含む研究会のあり方についてもご意見をいただくことができました。さらには、オンラインの整備によって非会員の方の参加のハードルも少しは下げられたのではないかと思います。

さて、第31号では、本研究会の会員が中心となって刊行された、木村元編『境界線の学校史——戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』（東京大学出版会、2020年）をもとに、特集「『境界線の学校史』の射程」を組みました。内容は、本書執筆者による座談会、書評、書評リプライ、論文2本と充実したものとなっています。公教育の揺らぎが指摘されて久しい昨今ですが、それを再考していく上での新たな視角を本特集は提示できたのではないかと思います。特集にご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。また本特集の準備にあたり、会員の前田晶子さんには、編集委員会に加わって多大なご尽力をいただきました。ここに記して心より御礼申し上げます。

さらに、第31号では、研究論文3本と研究ノート1本を掲載することができました。いずれも二回の論文検討会を経て十分に磨きかけた力作ばかりとなっています。ぜひご一読いただきたく存じます。また、論文検討会に参加いただいたアドバイザーをはじめとするみなさまに感謝申し上げます。第32号でも会員のみなさまから意欲的な原稿が寄せられますことを期待いたします。

今後とも、一橋大学〈教育と社会〉研究会をよろしく願いたします。

（『〈教育と社会〉研究』第31号編集委員会）

### 『〈教育と社会〉研究』第31号編集委員会

編集長：川尻剛士

編集委員：川尻剛士、栗原和樹、渡邊綾、中田康彦、太田美幸、前田晶子

### 『〈教育と社会〉研究』第32号原稿募集

執筆希望者は、前頁の投稿要領にしたがってご応募下さい。

投稿希望〆切：2022年1月末日

原稿〆切：2022年3月末日

募集原稿：論文／研究ノート／文献・資料紹介／書評

---

### 〈教育と社会〉研究 第31号

2021年8月31日 印刷

2021年8月31日 発行

編集発行 一橋大学〈教育と社会〉研究会

印刷 社会福祉法人 東京コロニー